

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106738		
法人名	株式会社ピナクル		
事業所名	グループホーム ワカヤ・クラブ		
所在地	岡山市中区円山216-22		
自己評価作成日	平成25年4月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106738-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成25年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

わたくしたちは、ご利用者様お一人お一人に快適な時間・空間・暮らしを提供できるよう心がけております。ご利用者様が安心、安全、安楽にこれまでのそれぞれの生活の延長で生活ができるよう、ご家族様からのご支援を頂きながら頑張っております。安心、安全に暮らして頂くために、内科、心療内科、整形外科、歯科といろいろな診療科目の先生に往診に来て頂き、ご利用者様の医療面でのバックアップ体制を整えております。また職員の約3割は看護師等の医療経験者ですので、問題発見や緊急対応も抜群です。さらに施設のロケーションも高台にあり眺めも良く、大きな民家の改修型の施設ですので、ご利用者様には家庭的な雰囲気でもちやうど安楽に過ごして頂けるものと思います。

岡山市の郊外、閑静な高級住宅地に事業所は位置している。緑豊かで眺めの良い所で、入居者は四季を感じながら生活を送っている。個人の要望・能力に準じて、安心して穏やかに過ごせる様、様々なタイプの部屋から居室を選択し、安楽に暮らしている。「その人らしい」の基本理念の下、本人本位の生活スタイルを大切に、その実践に努める一方、理念に基づく事業目標を立て、実践状況を把握する為、定期的にモニタリング調査をし、統一した介護を目指している。
五月晴れに緑が鮮やかに生える頃、もてなしの豊かな事業所でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で策定した運営目標に基づき事業所を運営し、会議で進捗状況のモニタリングを行う事により、目標の共有に努めている。	今までの生活スタイルに基づく本人の決定を支持する対応により、「その人らしく」の理念の実践に努めている。事業目標のモニタリングをし、達成状況を数値化して実践状況を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会、施設の行事の情報交換を行い、施設は町内のお祭り、草むしり、廃品回収、神社のお掃除などに参加し、町内からは施設で行うレクのボランティアや夏祭りに参加頂いている。	地域の労働奉仕、祭り、子供会の廃品回収に協力して地域と繋がりを持って暮らしている。月2回、POLAのマッサージボランティアが来訪してくれたり、楽器演奏(トーンチャイム)の演奏会を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、町内の皆様にも施設の見学や施設の運営状況報告を通じて、認知症の理解を頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議の参加者に施設見学をして頂き、気付いたこと等についてご意見を頂きサービスの向上に活かしていける様努めています。	偶数月に地域正・副会長、地域包括等が参加し開催している。事業報告、事業所・地域のイベントの協力依頼の確認、行事等の報告、報道で話題になった介護事故事例等を協議している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	受診を伴う事故があれば市に事故報告を行っている。また不明な点等があれば、市の介護保険課の担当者に相談し、アドバイスを頂くよう努めています。	市に事故報告を行っている。集団指導に出席したり、不明な点について質問したり、市の方針を確認したりして連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、外部からの安全確保の観点から行っているが、利用者の居室については施錠は行っていない。また身体拘束についての研修を行い、職員の意識を常に確認するよう努めている。	身体拘束に関する資料が用意され、職員は内部研修にて理解を得ている。見守り、本人の要望を把握して適切な対応に努めている為、入居者は落ち着いて生活を送っている。	現在、転倒の危険が大きい入居者を抱え、その行動に注意しながら、対応している様子である。引き続き行動の分析をしながら、拘束をしないケアに取り組まれる事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同テーマの研修を1年に1回開催し、マニュアルの再確認を行うことにより、高齢者の虐待を防止できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されているご利用者様がいらったので、職員には成年後見人制度の概要を説明し、当該利用者の活用されている成年後見人制度について具体的な理解できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様には施設の雰囲気をご家族様には施設の雰囲気だけではなく、これから具体的ににかかるコストの説明及び費用、その他入居後の協力体制等について細かくご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月に家族会を行い、ご利用者様、ご家族様に前回の家族会から起こった事故・苦情等の内容を提示し、ご意見ご要望を頂き、事業所運営に反映させる様努めている。	運営推進会議、家族会にて意見・要望を聴いている。請求書送付時に職員自筆の手紙を添え、活動の報告や日頃の様子を伝え、意見を聴く機会としている。施設便りやブログにて活動報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員向けのアンケートを行い、面談等も実施しながら、スタッフともコミュニケーションをとりながら問題の解決に努力している。	目標達成シートを作成して、職員が自己評価をし、そこから実践評価を導きだし、各自にコメントを伝え運営に反映させている。年2回、人事考課の際、意見を聴く機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新規スタッフの本採用時や有契約社員の更新時期には、本人とホーム長が独自の取り組み評価シートと目標設定シートを記入し、面談しながら目標や問題点について共有できるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については情報を提供し受講を促したり出入りの業者と講師に招いた勉強会も行っている。また事業所研修を毎月テーマを決めて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所研修では一部同業者にも門戸を開放し研修を受講頂くことにより、当施設運営への理解を得、相互のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様本人の訴え、ご家族様からの入居後の継続的なヒアリングを行うことによって、本人、家族が安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、ご利用者様が当施設に入居されることによって解決される問題点の説明だけではなく、ご家族の要望、施設側からの要望をお互いかなえていくことで、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご希望があれば、ご利用者様がもともと利用されていた美容室等の継続利用をして頂いたりしています。また施設の外出だけでは不十分と判断される方には個別に散歩をしたり、ご家族様に外出や外食にご一緒頂く等の協力を頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯のお手伝い、畑や花壇の管理等、できるご利用者様には、役割を持ってもらって共同で暮らしていることを意識してもらえる様努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様の距離が入所されてからの方が近くなるよう、ご家族様にもレクへの参加案内をしたりし、本人様との接触が増える様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	岡山市内の観光スポットと一緒に散策したりして、ご利用者様が過ごされてきた地域との関係が途切れない様に努めている。	季節毎に護国神社に初詣、上寺へ桜の花見、和気へ藤見にドライブを兼ね、出掛けている。家族会を定期的開催して面会の機会を設け、家族との関係継続支援に努めている。電話、手紙、年賀状のやりとりをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前10時、午後3時とティータイムを設け、ご利用者様同士が同じ食卓でお茶を頂きながら談笑でき関わりあえる様、心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後のご家族様へも、施設のイベントのご案内を届けたりし、関係を継続するよう努めています。転居された利用者様であれば、転居先からの情報提供依頼等へも対応するよう心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出のレクリエーションでは行き先や食べたいものを聞いたり、ご利用者様の誕生日には、ご希望をお聞きして特別な食事やバースデケーキ、好きな色の花束などをご用意したりしています。	家族から本人の暮らし方を聴き、そこから思いや要望を把握して介護に反映している。コミュニケーションを密に取り、反応や表情から意向の把握に努めている。介護現場にて本人の希望重視の姿勢を示している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際、それまでの利用者様の人生や暮らしについてご家族からお聞きし、その情報を活かした支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にご利用者様のできること、できないことをモニタリングし、できないことを手助けし、できることを維持して頂ける様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の完成にはご家族様にも立ち会って頂いたり、同席が困難なご家族様にはアンケートに回答いただき、一方的なサービス提供にならない様努めています。	毎月モニタリングを行い、状態の変化に応じて計画の変更をしている。現在抱える本人の要望を的確に捉え、具体的な介護計画を作成している。家族にグループホームでの過ごし方への要望の調査を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の様子は、申し送りで伝えられ、ご利用者様1人1人の介護記録に記入され、特記事項については定期的に開催されるカンファレンスで検討されるようになっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の了承を頂きながら、一見危険に思える家事のお手伝いや園芸のお手伝い、またその準備に係る買い物等にご利用者様に参加頂く、と言う形のサービス企画を実施しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーでのお買い物にご利用様と一緒に頂いたり、地域の散髪屋さん定期的にカットして頂く形で、地域資源の活用を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には隔週施設に往診に来て頂き、24時間の相談体制も取って頂いております。また年に1度の健康診断やインフルエンザ予防接種等もご協力頂いております。	かかりつけ医の医療情報提供書、看護添書に基づき、協力医に受診したり、往診してもらっている。定期的に往診を受け、健康を管理の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師、准看護師が総勤務の35%あり、日常の情報伝達の中で自然と医療系スタッフに利用者の情報が伝わるような仕組みになっており、随時医師や薬剤師との連携が取れております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院された際、病院へのカンファレンスへの出席や、普通のお見舞いをしながら、ご利用者様本人の様子確認、病院相談員とのコミュニケーションに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用様の医療的、介護的な岐路で、かかりつけ医、ご家族様も交えたカンファレンスを行い、それぞれの岐路での方向性を関係者で決定し、その後の支援をするようルール化されている。	胃瘻、IVH等、継続的な医療管理が必要となれば、事業所での介護は困難とみている。医療管理が必要なければ、終末期まで支援する用意がある。本人、家族には入居時に重要事項にて終末期についての説明をしている。	
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフに医療資格者が多いことを活かし、看護職員主催の「看護研修」を行なうことで利用者様の急変等に的確に対応できる様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で災害時の避難場所として活用いただけることを案内する等、地域との協力体制の強化に努めている。	災害時避難訓練を年2回実施している。消防計画を定期的に修正し、火災発生時や警戒宣言発生時の任務のマニュアルを作成している。防火設備の設置と点検も行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お風呂やトイレの援助では、ご利用者様が恥かしい思いをされない様、言葉かけや支援に気をつけております。	声掛けに注意して、周りへの配慮を示し、本人と確認を取りながら柔軟な対応をしている。本人の意志表示を大切に無理強いしない対応を心掛けて、「その人らしい」介護の方針に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいもの、着たい服、排泄のタイミング等、できるだけご本人様に確認を頂きながら、支援を進めていく様心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、ご利用者様が、起きたいときに起きて召し上がって頂ける等の配慮に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様が外出やお散歩の際は、お手持ちの服をご自身で選んで着て頂ける様、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に食事の準備、配膳、下膳、後片付けをご協力頂き、共同生活を感じて頂けるよう心がけています。	菜園を設け、野菜を植え、世話をし、収穫をして食材として楽しんでいる。嗜好調査にてパン食の日を火、金と決め、朝食に取り入れている。歳時記に沿ったメニューを考え、季節食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量的な満足を頂きながらも、カロリーや塩分計算をなされた配食業者から食材を仕入れ、調理は職員とご利用者様の手作りで、お食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々のご利用者様自身での口腔ケア、介護職員の介添えによる口腔ケアだけでなく、毎週歯科衛生士が口腔ケアに来て頂けるような仕組みになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様のできること、できないことの分析をもとに、ご利用者様がご自身の力で安全に継続して排泄が行なえる様、心がけております。	トイレに大きく「といれ」と表示して場所の確認が出来るようにしたり、残存機能を活かした介助にて自立支援をしている。排泄表の記録を取り、随時誘導にてトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談をしながら、ご利用者様の排便について適度なコントロールを行い、便秘や排便の失敗をできるだけ防ぐ様努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自身で入浴できるご利用者様は入りたいときに入って頂ける様にしています。 ご自身では入れないご利用者様もお声掛けの中で、希望をお聞きしながら入浴を支援しています。	時間を決めず、自主的な希望、又は声掛けにて希望を聴き、本人の入りたい時間に入浴をしている。夜間でも希望すれば入浴できる様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の離床と活動を促すことと、心療内科医師の助言を得ながら、日中の不安除去、昼夜逆転の回避、夜間のスムーズな就寝を支援しています。		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で頂く「お薬リスト」を管理し、薬剤の把握に努めるだけでなく、服薬介助のマニュアルを運用することで、ご利用者様の誤薬がなくなる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付けなど、ご利用者様ができることをお手伝い頂き、ご自身の役割を感じ続けながら生活できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設のお買物、近所のお散歩や畑の管理等にご利用者様をお誘いし、一緒にお出かけ頂ける様心がけております。	庭や近所への散歩に出たり、事業所で必要な物を職員と一緒に買い物に出かけている。菜園では季節の花や野菜を植え、成長の様子を見ながら、戸外に出て手入れをしたり収穫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様本人が管理できる方には、予測されるトラブル等についてご家族様に説明した上で、ご利用者様にお金を持って使って頂けるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分でご家族様に電話をかけて頂いたり、ご自分でできない方は、ご家族様からご利用者様宛てに電話をかけて頂いたりし、ご利用者様とご家族様のコミュニケーションを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様に協力を頂きながら、居室だけでなく、リビング、廊下等の共用スペースの掃除や換気を行い、ご利用者様が気持ちよく過ごして頂ける様心がけています。	食堂と居間が別に間取りしており、居間にはソファを置き、ゆったりと時間を過ごせる様配慮している。居間の窓からは手入れされた植木や、遠くには金甲山連山が眺められ、居心地良く過ごせる。配席にも配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルだけではなく、各フロアともソファスペースが2～3箇所設けてあり、ご利用者様がお好きな場所で、お好きな方と過ごして頂けるような空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、衣替え時、または普段の面会時に貴重品以外のご利用者様の荷物の出入りは、自由とし、ご利用者様のなじみの空間作りを支援しています。	使い慣れた筆筒、鏡台、夫・家族の写真等を持ち込み、居心地良く過ごせる様工夫をしている。各部屋には加湿器を用意して健康への配慮をしている。本人の要望により床対応を受け入れ、居心地よく過ごせるような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の居室にはひらがなで表札を設けたり、トイレにも表札を設けたりして、ご利用者様が施設内での移動で混乱のない様に工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106738		
法人名	株式会社ピナクル		
事業所名	グループホーム ワカヤ・クラブ		
所在地	岡山市中区円山216-22		
自己評価作成日	平成25年4月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106738-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成25年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

わたくしたちは、ご利用者様お一人お一人に快適な時間・空間・暮らしを提供できるよう心がけております。ご利用者様が安心、安全、安楽にこれまでのそれぞれの生活の延長で生活ができるよう、ご家族様からのご支援を頂きながら頑張っております。安心、安全に暮らして頂くために、内科、心療内科、整形外科、歯科といろいろな診療科目の先生に往診に来て頂き、ご利用者様の医療面でのバックアップ体制を整えております。また職員の約3割は看護師等の医療経験者ですので、問題発見や緊急対応も抜群です。さらに施設のロケーションも高台にあり眺めも良く、大きな民家の改修型の施設ですので、ご利用者様には家庭的な雰囲気でもかもゆったりと安楽に過ごして頂けるものと思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で策定した運営目標に基づき事業所を運営し、会議で進捗状況のモニタリングを行う事により、目標の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会、施設の行事の情報交換を行い、施設は町内のお祭り、草むしり、廃品回収、神社のお掃除などに参加し、町内からは施設で行うレクのボランティアや夏祭りに参加頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、町内の皆様にも施設の見学や施設の運営状況報告を通じて、認知症の理解を頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議の参加者に施設見学をして頂き、気付いたこと等についてご意見を頂きサービスの向上に活かしていける様努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	受診を伴う事故があれば市に事故報告を行っている。また不明な点等があれば、市の介護保険課の担当者に相談し、アドバイスを頂くよう努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、外部からの安全確保の観点から行っているが、利用者の居室については施錠は行っていない。また身体拘束についての研修を行い、職員の意識を常に確認するよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同テーマの研修を1年に1回開催し、マニュアルの再確認を行うことにより、高齢者の虐待を防止できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されているご利用者様がいらったので、職員には成年後見人制度の概要を説明し、当該利用者の活用されている成年後見人制度について具体的な理解できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様には施設の雰囲気をご家族様には施設の雰囲気だけではなく、これから具体的ににかかるコストの説明及び費用、その他入居後の協力体制等について細かくご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月に家族会を行い、ご利用者様、ご家族様に前回の家族会から起こった事故・苦情等の内容を提示し、ご意見ご要望を頂き、事業所運営に反映させる様努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員向けのアンケートを行い、面談等も実施しながら、スタッフともコミュニケーションをとりながら問題の解決に努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新規スタッフの本採用時や有契約社員の更新時期には、本人とホーム長が独自の取り組み評価シートと目標設定シートを記入し、面談しながら目標や問題点について共有できるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については情報を提供し受講を促したり出入りの業者と講師に招いた勉強会も行っている。また事業所研修を毎月テーマを決めて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所研修では一部同業者にも門戸を開放し研修を受講頂くことにより、当施設運営への理解を得、相互のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様本人の訴え、ご家族様からの入居後の継続的なヒアリングを行うことによって、本人、家族が安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、ご利用者様が当施設に入居されることによって解決される問題点の説明だけではなく、ご家族の要望、施設側からの要望をお互いかなえていくことで、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご希望があれば、ご利用者様がもともと利用されていた美容室等の継続利用をして頂いたりしています。また施設の外出だけでは不十分と判断される方には個別に散歩をしたり、ご家族様に外出や外食にご一緒頂く等の協力を頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯のお手伝い、畑や花壇の管理等、できるご利用者様には、役割を持ってもらって共同で暮らしていることを意識してもらえる様努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様の距離が入所されてからの方が近くなるよう、ご家族様にもレクへの参加案内をしたりし、本人様との接触が増える様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	岡山市内の観光スポットと一緒に散策したりして、ご利用者様が過ごされてきた地域との関係が途切れない様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前10時、午後3時とティータイムを設け、ご利用者様同士が同じ食卓でお茶を頂きながら談笑でき関わりあえる様、心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後のご家族様へも、施設のイベントのご案内を届けたりし、関係を継続するよう努めています。転居された利用者様であれば、転居先からの情報提供依頼等へも対応するよう心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出のレクリエーションでは行き先や食べたいものを聞いたり、ご利用者様の誕生日には、ご希望をお聞きして特別な食事やバースデケーキ、好きな色の花束などをご用意したりしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際、それまでの利用者様の人生や暮らしについてご家族からお聞きし、その情報を活かした支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にご利用者様のできること、できないことをモニタリングし、できないことを手助けし、できることを維持して頂ける様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の完成にはご家族様にも立ち会って頂いたり、同席が困難なご家族様にはアンケートに回答いただき、一方的なサービス提供にならない様努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の様子は、申し送りで伝えられ、ご利用者様1人1人の介護記録に記入され、特記事項については定期的に開催されるカンファレンスで検討されるようになっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の了承を頂きながら、一見危険に思える家事のお手伝いや園芸のお手伝い、またその準備に係る買い物等にご利用者様に参加頂く、と言う形のサービス企画を実施しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーでのお買い物にご利用者様と一緒に頂いたり、地域の散髪屋さん定期的にカットして頂く形で、地域資源の活用を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には隔週施設に往診に来て頂き、24時間の相談体制も取って頂いております。また年に1度の健康診断やインフルエンザ予防接種等もご協力頂いております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師、准看護師が総勤務の35%あり、日常の情報伝達の中で自然と医療系スタッフに利用者の情報が伝わるような仕組みになっており、随時医師や薬剤師との連携が取れております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際、病院へのカンファレンスへの出席や、普通のお見舞いをしながら、ご利用者様本人の様子確認、病院相談員とのコミュニケーションに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の医療的、介護的な岐路で、かかりつけ医、ご家族様も交えたカンファレンスを行い、それぞれの岐路での方向性を関係者で決定し、その後の支援をするようルール化されている。		
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフに医療資格者が多いことを活かし、看護職員主催の「看護研修」を行なうことで利用者様の急変等に的確に対応できる様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で災害時の避難場所として活用いただけることを案内する等、地域との協力体制の強化に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お風呂やトイレの援助では、ご利用者様が恥かしい思いをされない様、言葉かけや支援に気をつけております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいもの、着たい服、排泄のタイミング等、できるだけご本人様に確認を頂きながら、支援を進めていく様心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、ご利用者様が、起きたいときに起きて召し上がって頂ける等の配慮に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様が外出やお散歩の際は、お手持ちの服をご自身で選んで着て頂ける様、支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に食事の準備、配膳、下膳、後片付けをご協力頂き、共同生活を感じて頂けるよう心がけています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量的な満足を頂きながらも、カロリーや塩分計算をなされた配食業者から食材を仕入れ、調理は職員とご利用者様の手作りで、お食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々のご利用者様自身での口腔ケア、介護職員の介添えによる口腔ケアだけでなく、毎週歯科衛生士が口腔ケアに来て頂けるような仕組みになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様のできること、できないことの分析をもとに、ご利用者様がご自身の力で安全に継続して排泄が行なえる様、心がけております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談をしながら、ご利用者様の排便について適度なコントロールを行い、便秘や排便の失敗をできるだけ防ぐ様努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自身で入浴できるご利用者様は入りたいときに入って頂ける様にしています。 ご自身では入れないご利用者様もお声掛けの中で、希望をお聞きしながら入浴を支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の離床と活動を促すことと、心療内科医師の助言を得ながら、日中の不安除去、昼夜逆転の回避、夜間のスムーズな就寝を支援しています。		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で頂く「お薬リスト」を管理し、薬剤の把握に努めるだけでなく、服薬介助のマニュアルを運用することで、ご利用者様の誤薬がなくなる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付けなど、ご利用者様ができることをお手伝い頂き、ご自身の役割を感じ続けながら生活できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設のお買物、近所のお散歩や畑の管理等にご利用者様をお誘いし、一緒にお出かけ頂ける様心がけております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様本人が管理できる方には、予測されるトラブル等についてご家族様に説明した上で、ご利用者様にお金を持って使って頂けるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分でご家族様に電話をかけて頂いたり、ご自分でできない方は、ご家族様からご利用者様宛てに電話をかけて頂いたりし、ご利用者様とご家族様のコミュニケーションを支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様に協力を頂きながら、居室だけでなく、リビング、廊下等の共用スペースの掃除や換気を行い、ご利用者様が気持ちよく過ごして頂ける様心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルだけではなく、各フロアともソファスペースが2～3箇所設けてあり、ご利用者様がお好きな場所で、お好きな方と過ごして頂けるような空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、衣替え時、または普段の面会時に貴重品以外のご利用者様の荷物の出入りは、自由とし、ご利用者様のなじみの空間作りを支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の居室にはひらがなで表札を設けたり、トイレにも表札を設けたりして、ご利用者様が施設内での移動で混乱のない様に工夫している。		